

リハビリテーション学科 理学療法学専攻 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	28	生理学実習
1年	47	臨床実習Ⅰ（体験実習）
2年	73	臨床能力演習
2年	82・83	内部障害系理学療法学
2年	84・85	内部障害系理学療法学演習
2年	88	臨床実習Ⅱ（臨床評価）
3年	102・103	専門支持科目特別演習
3年	104・105	専門展開科目特別演習

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●	●		●	

科目名	生理学実習				単位認定者	鈴木 裕一		評価の方法	授業内課題 (小テスト)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
	O T	必修	1年	授業形態	実習	授業時間数	44 時間			
						授業回数	22 回			

授業の概要
本講義では、「生理学 I・II」で学修した内容について、実際の測定・実験を通し、その生理学的メカニズムについて学修する。主に、心電図、神経伝導速度、筋電図、反射、感覚、心肺機能、体組成、血圧、尿組成に関する測定・実験を実施する。

到達目標
心電図、神経伝導速度、筋電図、反射、感覚、心肺機能、体組成、血圧、尿組成について、各臓器の構造と機能を基に説明できる。

学修者への期待等
積極的に観察、実験に望むこと。

回	授業計画	準備学修	担当
1	細胞（口腔上皮の細胞の顕微鏡観察）	細胞に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
2	皮膚（皮下脂肪厚さ測定、発汗測定、指紋観察）	外皮に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
3	骨の実習（関節、骨、赤色骨髄の観察）	骨に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
4	骨格筋の実習（表面筋電図）	骨格筋に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
5	神経の実習（神経伝導速度測定）	神経に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
6	中枢神経の実習（脳波測定）	中枢神経に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
7	末梢神経系の実習（腱反射、対光反射）	末梢神経に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
8	皮膚感覚の実験（振動覚検査、2点弁別閾、温点・冷点）	皮膚感覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
9	特殊感覚の実習1（盲点、骨導音・気導音）	視覚・聴覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
10	特殊感覚の実習2（味覚検査、嗅覚検査）	味覚・嗅覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
11	体組成（BMI、骨格筋量指数）	体組成に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
12	循環機能実習1（心電図）	心臓に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
13	循環機能実習2（血圧）	血管に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
14	呼吸の実習1（スパイロメータ）	呼吸に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
15	呼吸の実習2（酸素飽和度測定）	血液に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩

回	授業計画	準備学修	担当
16	体温調節（核心温度、熱中症指数）	体温に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
17	運動生理実習 1（安静時代謝）	代謝に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
18	運動生理実習 2（眼球震盪、重心動揺測定）	平衡覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
19	運動生理実習 3（運動と血圧、心拍数変化）	運動と循環器に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
20	運動生理実習 4（運動とエネルギー代謝変化）	エネルギー代謝に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
21	体液調節の実習（尿の組成測定）	体液に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
22	内分泌の実習（血糖値測定）	ホルモンに関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 荒牧 隼浩
教科書	「人体の構造と機能」 エレインN. マリーブ著、第4版、医学書院		
参考文献			
備考	P T専攻2クラス 22回のうち1回目、4回目、7回目、10回目、13回目、16回目、19回目、22回目はP T・O T合同授業。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CLP-01				
	●	●	●	●	●					
科目名	臨床実習 I (体験実習)				単位認定者	大和田 宏美		評価の方法	実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
				授業形態	実習	授業時間数	45 時間			
						授業回数	- 回			
授業の概要	臨床実習I (体験実習) では、実習施設において、実際の理学療法を体験することを目的とする。さらに、理学療法士の活動見学や理学療法体験を通し、対象者からの情報収集やコミュニケーションの取り方・接し方などの医療面接スキルを身につける。また、理学療法士の役割と位置づけ、他職種との連携などを通してリハビリテーションチームとは何かを体験する。									
到達目標	1) コミュニケーションスキルを身に着けること 2) 評価で習った検査・測定を実際の現場で体験すること									
学修者への期待等	はじめての臨床実習ですので、利用者と積極的にコミュニケーションをはかってください。 ・実習施設では、実習生として責任ある行動をとること ・実習記録の作成・提出は期限を厳守すること ・実習施設における規則・心得を守ること									
授業計画					準備学修					
1. 実習期間 1単位 45時間 実習期間：2021年2月15日 (月) ～ 2月20日 (土) の期間内で4日間とする 2. 実習目標 1) 対象者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成する。 2) 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚をもった行動がとれる。 3) 基本的理学療法の見学・体験を通して、自己の理学療法観を育成できる。 3. 実習計画 1) 実習施設は理学療法士が治療業務に従事している医療施設とする。 2) 実習時間は従事する理学療法士の勤務時間に準じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや理学療法士の治療業務および理学療法に関連する他部門等を見学する。 4) 毎日の実習状況記録を臨床実習指導者に提出し指導を受ける。 5) 実習期間終了後、臨床実習記録、学内の課題などを提出する。 4. 単位認定について 成績は、症例発表会などの実習セミナー、臨床実習記録等の確認および実習生指導報告書の内容を踏まえて総合的に判断する。					臨床実習前・後のオリエンテーションに参加すること。					
教科書	特に指定しない									
参考文献	「臨床実習の手引き」を配付する									
備考	担当者 理学療法学専攻全教員：三浦雅史、大和田宏美、大友篤、大橋孝子、坂上尚穂、宮本浩樹、遠藤康裕、小関友記、森永 雄、鈴木裕治、佐々木広人、 荒牧隼浩									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

(削除)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-ASP-04			
		●	●	●					
科目名	臨床能力演習				単位認定者	佐々木 広人		授業内課題 (レポート等)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
							授業時間数		30 時間
				授業形態	演習	授業回数			15 回
授業の概要	臨床実習に向けて、理学療法士として必要な接遇、対人コミュニケーション、基本的な評価技術能力を身に付ける必要がある。臨床能力演習では、客観的臨床能力試験 (OSCE) を実施し、症例に即した理学療法評価を円滑に実施できるようになることを目的とする。さらに、理学療法評価項目の選択、問題点の抽出、治療プログラムの立案に至るそのプロセスを学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 対象疾患に対し臨床思考過程の基本的な流れを実践できるようになる。 対象疾患の病態やリスクを理解し、適切な理学療法評価項目を選択することができる。 ICFの概念に基づき、障害を構造的に捉え、対象者の持つ問題点を列挙できるようになる。 専門用語を的確に用いた症例のまとめができるようになる。 								
学修者への期待等	症例に対する評価項目の選択、評価結果の「統合と解釈」をグループで検討しながら理解を深めます。課題に対しては、教科書や文献などを自ら調べ、諸問題に対する解決能力の向上が求められています。学生各自の積極的な取り組みとグループ内での活発なディスカッションを期待します。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	オリエンテーション：症例のまとめ方 (スライド・レジユメの作成方法)				復習を行い、症例のまとめ方について理解をすること。			佐々木 広人 大友 篤	
2	筋骨格系疾患の臨床思考過程 (1) (グループワーク)				評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと。(概ね60分程度)			佐々木 広人 大友 篤	
3	筋骨格系疾患の臨床思考過程 (2) (グループワーク)							佐々木 広人 大友 篤	
4	筋骨格系疾患の臨床思考過程 (3) (スライド・レジユメ作成)				発表用スライドの作成および提出用レジユメを作成。発表準備。(概ね60分程度)			佐々木 広人 宮本 浩樹	
5	筋骨格系疾患の臨床思考過程 (4) (スライド・レジユメ作成)							佐々木 広人 宮本 浩樹	
6	筋骨格系疾患の臨床思考過程 (5) (スライド・レジユメ作成)							佐々木 広人 宮本 浩樹	
7	中枢神経系疾患の臨床思考過程(1) (グループワーク)				評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと。(概ね60分程度)			小関 友記 宮本 浩樹	
8	中枢神経系疾患の臨床思考過程(2) (グループワーク)							小関 友記 宮本 浩樹	
9	中枢神経系疾患の臨床思考過程(3) (スライド・レジユメ作成)				発表用スライドの作成および提出用レジユメを作成。発表準備。(概ね60分程度)			小関 友記 宮本 浩樹	
10	中枢神経系疾患の臨床思考過程(4) (スライド・レジユメ作成)							小関 友記 宮本 浩樹	
11	中枢神経系疾患の臨床思考過程(5) (スライド・レジユメ作成)							小関 友記 宮本 浩樹	
12	疾患別臨床思考過程 (発表)				他グループの疾患についても評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと。(概ね60分程度)			小関 友記 宮本 浩樹	
13	内部障害系疾患の臨床思考過程(1) (グループワーク)				評価学や疾患別理学療法で学んだことの復習をしておくこと。(概ね60分程度)			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
14	内部障害系疾患の臨床思考過程(2) (グループワーク)							大和田 宏美 荒牧 隼浩	
15	内部障害系疾患の臨床思考過程(3) (グループワーク)							大和田 宏美 荒牧 隼浩	
教科書	なし								
参考文献	「ケースで学ぶ理学療法臨床思考 臨床推論能力スキルアップ」 嶋田智明 編、文光堂 「P T 症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター」 相澤純也、美崎定也、石黒幸治 (編集)、羊土社								
備考	A B 別 2 クラス 授業内課題については、LMSにて期限を守り提出すること。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

科目担当者は、理学療法学全般に関する評価および治療の実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-08			
		●	●	●					
科目名	内部障害系理学療法学				単位認定者	大和田 宏美		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	評価の方法	単位数	3 単位	
							授業時間数	60 時間	
				授業形態	講義		授業回数	30 回	
授業の概要	内部障害疾患における病態把握とリスク管理、合併症、理学療法評価、理学療法プログラム、各疾患特有のADL評価について理解する。内部障害学総論、呼吸理学療法、循環器理学療法、糖尿病の理学療法、腎臓リハビリテーション、がんのリハビリテーションなどについて学修する。								
到達目標	内部障害領域の呼吸器系、循環器系、腎臓系、がんのリハビリテーションに対する理解を深め、各領域分野の役割と実際について学ぶことを目標とする。 1. 呼吸器系・循環器系・腎臓系の特徴を理解し、内部障害のリハビリテーションを理解できるようになる。 2. 各疾患におけるリスク管理について理解できるようになる。 3. 各疾患の症状と障害および理学療法の理論と実際を関連付けて理解できるようになる。								
学修者への期待等	臨床実習で内部障害領域の対象者に対して評価や治療プログラムの立案、理学療法治療の実施ができるように学修してください。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	内部障害学総論				内部障害のリハビリテーションについて調べておくこと。			大和田 宏美	
2	糖尿病に対する理学療法① 糖代謝の機能				予習：代謝（エネルギー・糖）について予習すること。（予習概ね60分程度）			坂上 尚穂	
3	糖尿病に対する理学療法② 病態と合併症				教科書の該当箇所を精読すること。 （予習・復習概ね30分程度）			坂上 尚穂	
4	糖尿病に対する理学療法③ 運動療法の効果							坂上 尚穂	
5	糖尿病に対する理学療法④ 足病変に対する理学療法				課題（実施時間概ね60分程度）			坂上 尚穂	
6	腎臓疾患に対する理学療法① 腎臓の機能と症状				予習：腎臓の生理学について予習すること。（予習概ね1時間程度）			坂上 尚穂	
7	腎臓疾患に対する理学療法② 理学療法の実際				教科書の該当箇所を精読すること。（予習・復習概ね30分程度）			坂上 尚穂	
8	がんに対する理学療法① がんのリハビリテーション概要（病態、治療、病期別リハビリ）				予習：病理学の教科書の腫瘍についてを予習すること。（概ね60分程度）			大友 篤	
9	がんのリハビリの実際② がんのリハビリの実際（評価、病期別リハビリの実際、心のケア）				がんの病期別リハビリについて教科書を読み予習すること。（概ね30分程度）			大友 篤	
10	循環器系の解剖学・生理学				教科書にて循環器の解剖・生理学について復習しておくこと。（概ね60分程度）			村上 賢治	
11	循環器リハビリテーション対象疾患の病態				教科書にて循環器疾患について調べておくこと。（概ね60分程度）			村上 賢治	
12	心電図の基礎				教科書の心電図の基本的な構造を調べておくこと。（概ね60分程度）			村上 賢治	
13	心電図の診かたと不整脈				教科書にて不整脈について調べておくこと。（概ね60分程度）			村上 賢治	
14	循環器疾患に対する理学療法 心不全に対する病態と評価				教科書にて心不全の評価について調べておくこと。（概ね60分程度）			村上 賢治	
15	循環器疾患に対する理学療法 心不全に対する運動療法				教科書にて心不全の運動療法について調べておくこと。（概ね60分程度）			村上 賢治	

回	授業計画	準備学修	担当
16	循環器疾患に対する理学療法 虚血性心疾患に対する病態と評価	教科書にて虚血性心疾患の評価について調べておくこと。(概ね60分程度)	村上 賢治
17	循環器疾患に対する理学療法 虚血性心疾患に対する運動療法	教科書にて虚血性心疾患の運動療法について調べておくこと。(概ね60分程度)	村上 賢治
18	循環器疾患に対する理学療法 大動脈疾患に対する評価・運動療法	教科書にて大動脈疾患の評価と運動療法について調べておくこと。(概ね60分程度)	村上 賢治
19	循環器疾患に対する理学療法 末梢動脈・静脈疾患に対する評価・運動療法	教科書にて末梢動脈・静脈疾患の評価と運動療法について調べておくこと。(概ね60分程度)	村上 賢治
20	呼吸器系の解剖学	呼吸器系の解剖学(グレイの解剖学)の呼吸器系を復習しておくこと。(予習60分程度)	大和田 宏美
21	呼吸器系の生理学	呼吸器系の解剖学・運動学・生理学を復習しておくこと。教科書(P155-162)を精読すること。(予習60分程度)	大和田 宏美
22	呼吸不全と呼吸器疾患	内科学の呼吸器疾患を復習をしておくこと。教科書(P163-178)教科書を読んでおくこと。(予習60分程度)	大和田 宏美
23	酸素化能、換気障害について(スパイロメトリー)	教科書(P179-188)の血液ガスおよびスパイロメトリーについて読んでおくこと。(予習60分程度)	大和田 宏美
24	胸部レントゲン写真の見方・CT所見の見方	配付資料を読んでおくこと。(予習60分程度)	大和田 宏美
25	呼吸理学療法のための評価:運動機能評価	教科書(P189-203)の運動耐容能について読んでおくこと。(予習60分程度)	大和田 宏美
26	呼吸理学療法のための評価:ADL・QOL評価	教科書(P205-214)の呼吸器疾患の理学療法評価について読んでおくこと。(予習60分程度)	大和田 宏美
27	呼吸器疾患と理学療法:COPD	教科書(P215-238)のCOPDの理学療法について読んでおくこと。(予習60分程度)	大和田 宏美
28	呼吸器疾患と理学療法:拘束性障害	教科書(P239-257)の拘束性障害の理学療法について読んでおくこと。(予習60分程度)	大和田 宏美
29	胸部外科術後の呼吸理学療法	教科書(P259-284)の開胸術後の理学療法について読んでおくこと。(予習60分程度)	荒牧 隼浩
30	呼吸器疾患のまとめ(症例検討)	呼吸器系の理学療法について理解を深めておくこと。(復習60分程度)	荒牧 隼浩
教科書	「内部障害理学療法学テキスト 改定第3版」細田多穂 編、南江堂		
参考文献	「循環器理学療法の理論と技術」増田卓・松永篤彦編、メジカルビュー社 「がんのリハビリテーションガイドライン」日本リハビリテーション医学会、金原出版 「冊子:がんの療養とリハビリテーション」国立がん研究センター、がん対策情報センター		
備考	A B 合同授業		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

内部障害系疾患患者の治療経験が豊富であり、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-09			
		●	●	●					
科目名	内部障害系理学療法学演習				単位認定者	大和田 宏美		試験（筆記）	50%
対象学科 必修・選択 配当年次	PT	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	試験（実技）	40%
						授業時間数	30 時間		
				授業形態	演習	授業回数	15 回		
授業の概要	内部障害に起因する機能・運動障害の病態、その回復過程と予後に関する知識をもとに、内部障害の理学療法を実施するためのリスク管理、理学療法評価、運動療法、ADL指導、生活環境支援のための理論と技術を習得する。本講義では、主に、呼吸理学療法と循環器理学療法における理学療法技術を修得する。								
到達目標	内部障害領域の呼吸器系、循環器系、腎臓系、がんのリハビリテーションに対する理解を深め、各領域分野の役割と実際について学ぶことを目標とする。 1. 呼吸器系・循環器系・腎臓系の特徴を理解し、内部障害のリハビリテーションを実施できるようになる。 2. 他疾患に合併する場合でも、疾患のリスクを把握し運動療法を実施できるようになる。 3. 呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメントが実施できるようになる。								
学修者への期待等	臨床実習で内部障害領域の対象者に対して評価や治療プログラムの立案、理学療法治療の実施ができるように学修してください。講義の理解度（到達度）を確認するため、講義中に実技確認テストを実施することがあります。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	循環器疾患に対するフィジカルアセスメント				教科書にて身体所見の診方を調べておくこと（60分程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
2	運動負荷試験と運動処方（理論）				教科書にて運動負荷試験と運動処方について調べておくこと（60分程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
3	運動負荷試験と運動処方（実際）				教科書にて運動負荷試験と運動処方について調べておくこと（60分程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
4	6分間歩行試験・シャトルウォーキングテスト				6分間歩行試験・シャトルウォーキングテストについて調べておくこと（30分程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
5	リスク管理とBLS（AED）				教科書にてリスク管理について調べておくこと（30分程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
6	BLS（AED）の実際				BLSの手順を復習しておくこと（30分程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
7	呼吸器系のフィジカルアセスメント：視診				配付資料の「フィジカルアセスメント：視診」の予習復習（概ね60分程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
8	呼吸器系のフィジカルアセスメント：触診				配付資料の「フィジカルアセスメント：触診」の予習復習（概ね60分程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
9	呼吸器系のフィジカルアセスメント：打診・聴診				配付資料の「フィジカルアセスメント：打診・聴診」の予習復習（概ね60分程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
10	呼吸理学療法評価とコンディショニング				配付資料の「フィジカルアセスメント：コンディショニング」の予習復習（概ね60分程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
11	用手的呼吸介助手技①（上部胸郭介助手技）				配付資料の「排痰法：上部胸郭介助手技」の予習復習（概ね60分程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
12	用手的呼吸介助手技②（下部胸郭・側臥位介助手技）				配付資料の「排痰法：下部胸郭介助手技・側臥位介助手技」の予習復習（概ね60分程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
13	排痰法				教科書（P285-297）の排痰法について読んでおくこと（概ね60分程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
14	吸引と口腔ケア①講義				教科書（P298-305）の気管吸引について読んでおくこと（概ね60分程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
15	吸引と口腔ケア②実習				配付資料の「吸引」の予習復習（概ね30分程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩	
教科書	「内部障害理学療法学テキスト 改定第3版」細田多穂 編、南江堂								
参考文献	「循環器理学療法の理論と技術」増田卓・松永篤彦編、メジカルビュー社 「フィジカルアセスメント徹底ガイド 循環」三浦 稚郁子 編、中山書店 「フィジカルアセスメント徹底ガイド 呼吸」高橋 仁美 編、中山書店								
備考	A B別2クラス レポート課題は採点后返却します。実技中心なのでTシャツ、聴診器の用意をしてください。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

内部障害系疾患患者の治療経験が豊富である。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CLP-02				
	●	●	●	●	●					
科目名	臨床実習Ⅱ（臨床評価）				単位認定者	大和田 宏美		評価の方法	実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	5 単位			
				授業形態	実習	授業時間数	225 時間			
						授業回数	- 回			
授業の概要	臨床実習Ⅱ（臨床評価）では、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の対象者に対して、理学療法検査・測定を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案および治療目標の設定ができるようになることを目的とする。									
学修者への期待等	<p>これまで学修した理学療法学の知識および技術を利用者をとおして実施できるように、主体的に取り組んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設では、実習生として責任ある行動をとること ・実習記録の作成・提出は期限を厳守すること ・実習施設における規則・心得を守ること 									
授業計画						準備学修				
<p>1. 実習期間 5単位 2021年 1月18日（月）～2月26日（金）（28日間）</p> <p>2. 実習の概要 臨床の実際を理解するため、臨床的業務見学その他、臨床施設の概要の把握、他職種とのかかわりについて、体験的に習得する。 はじめて利用者に接する機会であり、実際の臨床場面において医療従事者としての態度、心構えを身につける。 学内で修得した基本的な検査・測定を正確に実施し、安全性や利用者の状態の変化を考慮し、基本的対応ができるようになる。 臨床実習指導者の指導のもと、自発的行動により、到達目標の達成を目指すとともに、評価とその記録を行う。</p> <p>3. 実習目標 1) 臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の利用者に対して、初期評価を行うことができる。 2) 利用者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成できる。 3) 文献や指導によって知識・技術を増やすことができる。</p> <p>4. 実習計画 1) 実習施設は理学療法士が勤務している医療機関および施設とする。 2) 実習は1日を8時間とし、28日間実施する。 3) 毎日の臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。</p> <p>5. 単位認定について 成績は、実習セミナー（症例発表会、レジュメの作成等）、臨床実習前後のOSCE評価および実習生指導報告書の内容を踏まえて総合的に判断する</p>						臨床実習前・後のオリエンテーションに参加すること。				
教科書	特に指定しない									
参考文献	1年次に配付した「臨床実習の手引き」を使用する									
備考	担当者 理学療法学専攻教員：三浦雅史、大和田宏美、大友篤、大橋孝子、坂上尚穂、宮本浩樹、遠藤康裕、小関友記、森永 雄、鈴木裕治、佐々木広人、 荒牧隼浩									
実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）										
(削除)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-3-SPS-01			
	●	●	●	●	●				
科目名	専門支持科目特別演習				単位認定者	大和田 宏美		試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	自由	3年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	
	O T	自由	3年			授業時間数	60 時間		
				授業形態	演習	授業回数	30 回		
授業の概要	本講では卒業後の活動における理学療法士・作業療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、基礎医学・臨床医学分野に関して3年間で学んだ知識と技術を整理し、国家資格を取得し専門職として活躍できるよう学修する。								
到達目標	1. 臨床医学分野に関して3年間で学んだ知識と技術を整理し、臨床応用ができるようになる。 2. 臨床医学の知識と技術を修得し、理学療法・作業療法を実践的に展開できるようになる。								
学修者への期待等	1. 授業で使用する資料に従って予習すること。 2. 復習は授業の終わったその日のうちに必ず行うこと。 3. 授業で理解できなかったところはそのままにせず、自分でも調べ、疑問は質問すること。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	解剖生理学（植物機能）1				事前に、国試の達人 運動解剖生理学編と臨床医学編にある各領域の問題を解いておくこと。（概ね60分程度）			宮本 浩樹	
2	解剖生理学（植物機能）2							宮本 浩樹	
3	解剖生理学（植物機能）3							宮本 浩樹	
4	解剖生理学（植物機能）4							宮本 浩樹	
5	解剖生理学（植物機能）5							宮本 浩樹	
6	解剖生理学（植物機能）6							宮本 浩樹	
7	解剖生理学（動物機能）1							鈴木 裕治	
8	解剖生理学（動物機能）2							鈴木 裕治	
9	解剖生理学（動物機能）3							鈴木 裕治	
10	解剖生理学（動物機能）4							鈴木 裕治	
11	運動機能学1							森永 雄	
12	運動機能学2							森永 雄	
13	運動機能学3							森永 雄	
14	運動機能学4							森永 雄	
15	人間発達学							大橋 孝子	

回	授業計画	準備学修	担当	
16	精神医学1	事前に、国試の達人 運動解剖生理学編と臨床医学編にある各領域の問題を解いておくこと。(概ね60分程度)	須藤 あゆみ	
17	精神医学2		須藤 あゆみ	
18	精神医学3		須藤 あゆみ	
19	病理学1		鈴木 裕治	
20	病理学2		鈴木 裕治	
21	病理学3		鈴木 裕治	
22	整形外科学1		宮本 浩樹	
23	整形外科学2		宮本 浩樹	
24	内科学1		荒牧 隼浩	
25	内科学2		荒牧 隼浩	
26	臨床心理学1		小関 友記	
27	臨床心理学2		小関 友記	
28	神経内科学1		小関 友記	
29	神経内科学2		小関 友記	
30	リハビリテーション医学 (臨床リハ医学)		森永 雄	
教科書	後日指定する			
参考文献	後日指定する			
備考	PT・OT合同授業：宮本浩樹、荒牧隼浩、須藤あゆみ、大橋孝子、小関友記、鈴木裕治、森永雄			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

(削除)

科目ナンバリング
RP-3-SPS-02

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●	●	●	●	●

科目名	専門展開科目特別演習				単位認定者	大和田 宏美		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	自由	3年	開講時期	後期	単位数	2 単位			
				授業形態	演習	授業時間数	60 時間			
						授業回数	30 回			

授業の概要
本講では卒業後の活動における理学療法士・作業療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、理学療法学・作業療法学の専門分野に関して3年間で学んだ知識と技術を整理し、国家資格を取得し専門職として活躍できるよう学修する。

到達目標
理学療法専門領域の知識と技術を用いて、理学療法を実践的に展開できるようになる。

学修者への期待等
1. 授業で使用する資料に従って予習すること
2. 復習は授業の終わったその日のうちに必ず行うこと
3. 授業で理解できなかったところはそのままにせず、自分でも調べ、疑問は質問すること

回	授業計画	準備学修	担当
1	理学療法評価学1	事前に、国試の達人 理学療法編にある各領域の問題を解いておくこと。（概ね60分程度）	遠藤 康裕
2	理学療法評価学2		遠藤 康裕
3	理学療法評価学3		遠藤 康裕
4	理学療法評価学4		遠藤 康裕
5	理学療法評価学5		遠藤 康裕
6	骨関節障害 1		鈴木 裕治
7	骨関節障害 2		鈴木 裕治
8	骨関節障害 3		鈴木 裕治
9	骨関節障害 4		鈴木 裕治
10	中枢神経障害1（脳卒中）		小関 友記
11	中枢神経障害2（脳卒中）		小関 友記
12	中枢神経障害3（脳卒中）		小関 友記
13	中枢神経障害4（脊髄損傷）		小関 友記
14	中枢神経障害5（神経筋疾患）		坂上 尚穂
15	中枢神経障害6（神経筋疾患）		坂上 尚穂

回	授業計画	準備学修	担当
16	運動療法 1	事前に、国試の達人 理学療法編にある各領域の問題を解いておくこと。(概ね60分程度)	宮本 浩樹
17	運動療法 2		宮本 浩樹
18	内部障害学 1		荒牧 隼浩
19	内部障害学 2		荒牧 隼浩
20	内部障害学 3		荒牧 隼浩
21	内部障害学 4		荒牧 隼浩
22	小児理学療法学 1		大橋 孝子
23	小児理学療法学 2		大橋 孝子
24	法律・制度・地域理学療法学		大橋 孝子
25	義肢装具学1		鈴木 裕治
26	義肢装具学2		鈴木 裕治
27	義肢装具学3		鈴木 裕治
28	義肢装具学4		鈴木 裕治
29	物理療法学1		鈴木 裕治
30	物理療法学2		鈴木 裕治
教科書	後日指定する		
参考文献	後日指定する		
備考	A B 合同授業 坂上尚穂、遠藤康裕、大橋孝子、宮本浩樹、 荒牧隼浩 、小関友記、鈴木裕治		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

(削除)